

「人権月間の取り組みから」



「皆」 さんは、友達を大切にしていますか？」

6月、児童会本部の児童がステージから呼び掛けました。自分たちの学校を振り返って、全校児童の前でパネルディスカッションを行うことから、八木小学校の人権月間の取り組みがスタートしました。パネルディスカッションでは、友達を大切にしたいと感じる様子や、みんなに気を付けてほしい行動を、パネラーの高学年児童が述べ合いました。

高学年の力強い呼び掛けを受け、全校で映画『しらんぷり』を見て考え合ったり、意見発表に取り組んだりと、月間中は人権について集中的に考える期間となりました。

2 学期には、人権擁護委員さんが自作の紙芝居『にじいろのさかな』を持って来校されました。

「一人ぼっちになったにじ魚（主人公）の気持ち分かるかな？」「仲間外れをしていたときはどうだろう？」お話をしながら子どもたちの考えを聞きました。子どもたちが自分の経験と合わせて考え発表する姿から、人生経験豊かな委員さんの口から語られる言葉が、子どもたちの心に届いた

様子が感じられました。

よ り良く過ごしたいという願いは、誰もが持っているものです。しかし、子どもたちだけでは、なかなか具体的な課題が浮かび上がりにません。大人の目から見れば、「こうあってほしい」「ここに気を付ければ、より良く過ごせるだろう」という課題はたくさん見えます。しかし、人権認識には子どもたち自身が考え、いろいろな機会をとらえて人々の生き方に触れ、感じていくことも必要だと考えます。

これからもさまざまな機会をとらえ、人としての生き方や人権の視点で考えることを大切にし、人権認識が深まっていく取り組みを創造していきたいと思えます。

（八木小学校 人権教育主任 石丸 晃久）



▲紙芝居を觀賞し、人権について考える児童たち



地球温暖化を防止し環境にやさしい暖房器具として注目されているペレットストーブ

がこの冬、市役所や小学校にお目見えしました。（写真・宮島ランチルーム）



伐材や木くずなどを利用しています。ペレットが普及すると、森林の手入れが進み、荒廃した森を助けることができます。また、燃焼時に発生する二酸化炭素は、樹木が成長する時に吸収した二酸化炭素が空気中に戻るだけなので、増えません。植林をすれば、樹木は再び大気中の二酸化炭素を吸収しながら成長し、燃料として活用できる資源となります。

今回のエコロジスト

竹村望さん

（宮島小6年）



ペレットストーブを見たのは初めてです。

見た目がとてもきれいだし、環境のことを考えると良い取り組みだなと思います。

小関芽衣さん

（宮島小6年）



ペレットストーブは普通のストーブより

暖かくておしやれだと思えます。石油は限りがあるけど、山の木は成長するので、燃料に木材を使うことは山が荒れないためにも大切だと思います。

ペレットストーブ設置場所

市役所本庁・日吉支所・

八木小学校・宮島小学校

ストーブ設置工事は給排気

管の設置のみの簡易工事です。臭いや煙は屋外に排気され室内にはこもりません。ご家庭で設置を検討されているなど、興味のある方はぜひ見学してください。（環境課）